

中医学のファカルティ・ディベロップメント

別府正志

東京医科歯科大学大学院 総合診療医学分野

長年、本邦の医学教育は停滞しており、欧米に10～20年遅れていると言われ続けていた。これが2010年に米国発のいわゆる「2023年問題」をきっかけに大きく動き出した。初期の動きは遅かったが、一度動き始めると全国レベルで急速に医学教育改革の波が動き始め、グローバルスタンダード準拠の医学教育が行われ始めている。

国際認定に関しては専門機関に論を譲るが、我々中医学教育に携わるものとしては、この波に後れを取っていては未来がない。現在進行している医学教育改革の中でいかに妥当性を担保しながら良質な教育を提供するかということが求められている。

本セッションでは、特に大学における中医学教育に関して以下のような点に注目して述べる。

1. 教授法 なんとなく教授法を選んではならない。
何を教えるか・ニーズや意図を明確にする
どのように教えるか・講義か小グループ学習かシミュレーションか/e-learningの活用、PBL/TBL、早期臨床体験実習等について
2. 学習者の評価 学習者の行動や教育内容を左右しうる。評価に関する正しい知識と根拠による実践が必要である
背景にある教育プログラムの到達目標は明確か。試験の目的、評価対象となる能力、出題形式があらかじめ十分に周知されているか
試験に合格した人は必要な能力があり、「秀（優）」を取った学生は優れた能力を有しているとみなせるか
妥当性と信頼性はあるか
3. カリキュラム策定
ニーズアセスメント、ステークホルダー、習得すべき能力
中医学教育におけるカリキュラム作成の特殊性
カリキュラム自体の評価

最新の医学教育手法を用いた中医学教育のための基礎となる知識の習得を目指します。ふるってご参加ください。